

大阪市立 川辺小学校



住所 〒547-0014 大阪市平野区長吉川辺 1-4-9

連絡先 ☎ 06-6790-8351

☎ 06-6799-1553

校長 兵庫 唯史

開校 昭和 54 年度

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751742>

教育目標

「自ら考え、正しく判断して実行する、心身ともにたくましい子どもを育てる」

重点目標

- 1 学力の向上を図る
- 2 道徳心・社会性を育てる
- 3 健康・体力を保持増進する
- 4 地域と共生する



教育方針(めざす子ども像)

- か・・・考えて行動する
わ・・・笑いがいっぱい
な・・・なにがあってもあきらめない
べ・・・勉強をがんばる子



運営に関する計画

【概要】

- 児童は自信がなく、自己肯定感が低い状態である。自信を持って取り組める児童の育成が必要である。体力の向上については各学級が工夫して運動に取り組むことによって、全国体力運動能力・運動習慣等調査における全国平均を向上してきている。
- 学力が大阪市学力経年調査の結果から全市平均より下回る結果となっているため、基礎基本から身につけさせていく必要がある。

【年度目標】

【安全・安心な教育の推進】

・年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところや得意なことがある」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。

◆安全で安心できる学校、教育環境の実現

- ・「学校安心ルール」の活用による規範意識の醸成。
- ・「いじめ・命について考える日」や「いじめアンケート」の実施によるいじめの未然防止、早期発見の取組の徹底。
- ・火事や地震・津波を想定した避難訓練や教職員の研修を行い、危機管理意識を高める。

◆道徳心・社会性の育成

- ・自らがかけがえのない大切な存在であると実感できるよう、学校教育だけでなく、家庭・地域等との連携を図り、児童の自尊感情を高め、他者を思いやる気持ちを育む。
- ・児童がお互いの違いを認め合い、友達を大切にすることを育む指導を行う。
- ・教職員は、キャリアパスポート等の活用を通して、達成できたことや児童の良いところを見つけて認めあい、自尊感情や自己有用感を高められるようにする。



【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・「授業はよくわかる」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を52%以上にする。

・「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を48%以上にする。

◆子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組

- ・朝学習を工夫し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点から、学習課題に対して、自分の思いや考えを言ったり書いたりする伝え合う場を工夫し、授業の中で友だちと交流し考えを深める学習を実施する。

◆健康や体力を保持増進する力の育成

- ・児童が意欲的に体力づくりに取り組めるように、学年の発達に合わせた学習カード等を活用し、体力向上への意欲を高める。
- ・多様な動きをつくる運動を積極的に授業に取り入れて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、意欲的に体を動かす児童を育てる。



【学びを支える教育環境の充実】

・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日数の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。)

◆地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援

- ・家庭・地域・外部団体との連携を図り、多様な体験学習を実施する。
- ・「はぐくみネット」と学校協議会との連携による学校教育活動の支援の充実を図る。

◆1人1台学習者用端末等 ICT 機器を活用した取組

- ・1人1台学習者用端末等 ICT 機器を活用し、個に応じた学習を充実させるため、児童が意欲的に取り組むことができるようにする。



校長先生からのメッセージ

本校は、今年度で創立47年目を迎えた市内では比較的新しい学校です。『自ら考え、正しく考え、正しく判断して実行する、心身ともにたくましい子どもを育てる』を教育目標に、校名「かわなべ」の各文字をとって「考えて行動する」「笑いがいっぱい」「何があってもあきらめない」「勉強をがんばる子」を『めざす児童像』として掲げ、日々の教育活動に力を注いでいます。

平野区でも一番南に位置し、大和川と隣接し、また、八幡宮の杜とも接しているため、豊かな自然に恵まれています。2年間続いた体育館の建設工事も終了し、令和6年度は、新しくなった体育館と整備された運動場で活動できるようになりました。また、毎日、登下校時には見守り隊の方々が見守り活動に取り組んでいただく等、地域との連携を深め、地域で子どもを育てるという視点で、様々な川辺小学校独自の活動も充実しています。

文科省によるGIGAスクール構想により、児童1人に1台の学習者用端末が整備されました。「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思いを描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい」という願いを胸に、子どもたちの『生きる力』の育成に向け、ICT機器の活用も積極的にとりいれながら、教職員が一丸となって教育活動をすすめています。

校長 兵庫 唯史



令和6年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	
62	57	平均正答率(%)



●結果と概要

調査結果から、国語科の平均正答率は、62%で全国平均正答率と比べて5.7%、大阪市の平均正答率より4ポイント下回る結果となった。算数科の平均正答率が57%で全国平均正答率と比べて6.4ポイント、大阪市の平均正答率より5ポイント下回る結果となった。また平均無解答率については、国語科は、1.6%で、全国平均無解答率より2.6ポイント、大阪市の平均無解答率より1.7ポイント低い結果になった。算数科でも、2.1%で全国平均無解答率より1.3ポイント、大阪市平均無解答率より1.1ポイント低い結果となり、問題に対して最後まであきらめずに取り組もうとする態度が児童に育成されている結果となった。

●取組の成果と課題

【国語】「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」の2つの領域において、全国平均正答率を上回っている。日常的に読書に親しみ読書が自分の考えを広げることに関与していることが理解できている。一方、「情報の扱いに関する事項」と「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関しては、全国平均正答率を下回っており、特に「書くこと」においては目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し伝えたいことを明確にすることに課題がある。

【算数】「図形」の領域においては大阪市平均正答率を上回っている。特に直方体の見取り図については確実に理解し書くことができています。一方「変化と関係」に関しては、2つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いて、単位量当たりの大きさの意味や表し方について十分理解できていない。「データの活用」に関しては、データを根拠として自分の考えをもつことに課題が見られる。

【質問調査】「自分には、よいところがあると思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の質問項目で、「当てはまる」とする肯定的な回答率が全国平均を上回っている。多くの児童が自分や友達の良さを認め、互いに支え合いながら学校生活を送っているといえる。また、教職員が児童理解を共有し、安心して過ごせる学校づくりに努めている成果が出ていると言える。さらに、「将来の夢や目標を持っている」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」や「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、

生かしたりすることができると感じますか」の質問項目においても肯定的な回答率が全国平均を上回っており、児童が学習に対して主体的に取り組んでいることがわかる。一方、「学校へ行くのは楽しいと思う」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童は36.6%と大阪市や全国と比べると、低くなっている。児童が「自分が好き」「友だちが好き」「学校が好き」と言えるような学校づくりに取り組むことが重要である。

【今後の取り組み】本校では、令和6年度より、算数科を研究教科として授業改善に向けた指導助言や校内研修等の支援などスクールアドバイザーの先生を招致し行っている。授業研究やメンター研修会等の教員研修を計画的に実践することを通して、授業を中心とし、様々な教育活動の中で児童一人一人が自分の考えをもち、互いに交流する場を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びを進め授業力向上に努めている。学力向上に向けた研修を重ねることで、さらに教員の指導力を磨き、根拠や理由を表現できる児童の育成を図り、学力向上に努めている。反復学習(計算・漢字・理科)を充実させるために、ICT機器を有効に活用し、「デジタルドリル」などの教材で漢字や計算等の基礎・基本の内容の定着や既習内容の復習等に取り組む。校内の掲示物を創意工夫し、社会情勢について知見を増やしたり、考えられる機会を増やすなど工夫し、学力の向上に努めている。家庭には、今回の児童質問紙からうかがえる実態を機会あるごとに伝え、児童の健全な心身の成長のために引き続き、家庭・学校・地域の連携を推進する。その課題解決のための協力を仰ぐようにしている。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	16.96	23.92	34.58	42.08	64.92	9.40	148.88	22.00	56.63
女子	15.73	18.64	39.73	33.82	42.73	10.10	135.68	12.05	52.14

●結果と概要

体力合計点の平均値は、男子は市を5.5、全国を4.1上回った。女子は市を0.33、全国を1.78下回った。種目別に見ると、男子は8種目全てにおいて市を上回り、そのうち7種目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ)において全国を上回った。中でも20mシャトルランにおいては市を19.87、全国を18.02と大きく上回った。女子は、4種目(握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン)において市を上回り、3種目(上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン)において全国を上回った。質問紙では、「運動やスポーツをすることが好きですか」の最も肯定的な回答割合は、男子は最も肯定的な回答が87.5%と全国より14.5%市より13.2%と大きく上回った。女子は肯定的な回答が市、全国より少し下回った。

また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子が0%と(60分~419分17.4%、420分以上が82.6%)市、全国より大きく上回った。女子は22.7%(市19.9%全国16%)やや少なめであった。

●取組の成果と課題

本校には、広い運動場があり、運動・スポーツの好きな児童が多く、休み時間になると、校庭で思いっきり活動し遊ぶ児童が多い。全校児童の取り組みとして、ドッジボール集会、なわとび集会、なわとび大会、かけあし週間、かけあし大会を計画・実施した。それぞれの取り組みの前には、取り組み強化週間を設け、児童の取り組み意欲を高めた。今後も体育科の授業の中で、持久性・柔軟性・瞬発性がより向上するように努め、児童の達成感や意欲を高める取り組みを多く取り入れて進めていく。

学校の特徴

学力向上(Englishタイム・デジタル教科書・読書タイム・漢字でGO!)

令和2年度から「英語」が必修科目となり、3・4年生も「外国語活動」という体験型の学習がスタートしました。「話す」「聞く」の活動に加えて、「英語」の教科では「読む」「書く」の学習も5年生から学習内容に含まれます。外国語活動教育の充実に向けては、C-NETの方などネイティブな英語に触れることで、外国語を楽しむ、慣れ親しむ活動から進めています。

ICT機器を活用した教育として、1人1台のタブレット端末を使った学習を行っています。デジタル教材や、デジタル教科書を活用したり、講師を招聘して、プログラミング学習や情報モラル教育に取り組んだりして、新たな学習にチャレンジします。

また、朝の時間に読書タイムを取り入れ、自ら読書ができるように「ひらちゃん読書ノート」の活用を推進しています。また、自ら学ぶ姿勢を育むよう「かんじでGO!」と称して漢字の取組を行い、児童朝会では各学年の漢字学習をがんばった児童に合格証を授与しています。

地域と共に学ぶ活動

各学年の学習園では、発達段階に応じて植物を育てて収穫も行っています。

本校ならではの充実した環境を最大限に生かしながら、今後も様々な活動を進めています。

※1年:昔あそび、幼稚園・保育所との交流

※2年:サツマイモ栽培、まち探検

※3年:綿づくり・綿つみ・綿くり活動、七輪体験

※4年:車いす体験、水辺の教室

※5年:地域探検学習、胸花教室、お米について

※6年:長吉川辺遺跡から学ぶ



体力向上



みんなで楽しくスポーツに取り組むことができるように、体育集会を行い、体力向上・健康増進に力を入れています。広々とした運動場と大型遊具や小山もあり、遊びを満喫しながら運動能力を高めることができます。



自然環境を生かした教育活動

日常的に、児童たちがピオトープやプール周辺の青々と茂った芝生で遊ぶ姿が見受けられます。また、学習活動としても、自然環境をフルに生かした楽しい活動が盛りだくさんです。低学年を中心に、生活科の一環としてピオトープで生き物を捕まえて、観察したりしています。毎年、4年生が、地域の方や区役所、環境局など多くの支援を受けて大和川について学ぶ「水辺の教室」で水質検査をしたり、大和川にいる生き物を観察したりします。また、校内の「生き物探し」にチャレンジし、自然観察学習を深めています。